

■教養教育科目

科目名	授業の目的・到達目標
哲学	<p><授業の目的> 現代の倫理的問題（社会問題）を感じて広げて、適切に対応するため、哲学的アプローチを試みる。</p> <p><到達目標> 現代の倫理的問題の背景としてある思想・価値観を知り、自分なりの判断基準を説明できるようにする。</p>
国語・国文学	<p><授業の目的> 我が国の伝統と文化に対する理解を深め、人間・社会・自然などについて考察し、自らの考えをよりよく表現できる力を「物語のいできはじめの祖」といわれる『竹取物語』を精読する中で、養おうとするものである。</p> <p><到達目標> 文脈に即して、書かれている内容を理解することを基礎として、自らの思索や調査を表現する力をつけるとともに、他者との言語を通しての伝え合う力を向上させることを目標とする。</p>
日本の伝統美学Ⅰ	<p><授業の目的> 多様な人々と協働し学び続ける力を身につけるため、日本の伝統工芸の結集であり、総合芸術であり、又、茶禅一味と言われ、精神的にもより高度な茶道を実習を通して学ぶ。</p> <p><到達目標> 茶の精神を少しでも理解し、より良き社会人となる。</p>
日本の伝統美学Ⅱ	<p><授業の目的> 多様な人々と協働し学び続ける力を身につけるため、文字の均整、均衡を理解し、文字を正しく美しく、体裁をよくまとめて書く。 特に社会に出て文字を書く場面に出会った時、困らない様に学習する。</p> <p><到達目標> 自分の名前、住所などが楷書、行書で正確に書けるようになる。 日常的によく使う文字や、葉書、履歴書を美しく書けるようになる。</p>
日本国憲法	<p><授業の目的> 学生が、我が国の基本法である日本国憲法に対する理解を深めることの手助けをするのがこの授業の目的である。</p> <p><到達目標> 学生が日本国憲法に対する興味を持つようになる。</p>
心理学	<p><授業の目的> 広い視野から人命を尊重し、その責任感と倫理観に基づいて、キャリア形成基礎力を発揮する専門的職業人として活躍するため、人間形成や対人関係のあり方、さらには社会現象の理解につなげ、社会適応を促進するための知識と測定方法を理解し活用することができるようになる。</p> <p><到達目標> 社会の状況を積極的に受け入れ、倫理的な観点から考えて行動するため、心理学に関する理論を自らの体験や日常生活で見られる事例を踏まえながら説明し、自らの将来計画に活かすことができる。</p>
情報科学Ⅰ	<p><授業の目的> 専門的職業人として必要な知識と技能を身につけるため、情報科学Ⅰ・Ⅱではグループワークによる学習活動を通じて主体的に学ぶ姿勢を身につけ、社会人として十分な情報処理能力を養うことを目的とする。</p> <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークによる学習活動を通じて積極的なコミュニケーションが取れる。 ・コンピュータ操作に関する問題を解決できるようになる。 ・セキュリティと情報モラルについて正しい知識を持つ。 ・電子機器を用いて、実用的な文書作成ができる。 ・画像処理ソフトを利用し、画像素材を目的に応じて加工できる。
情報科学Ⅱ	<p><授業の目的> 情報科学Ⅰに引き続き、専門的職業人として必要な知識と技能を身につけるため、社会人として十分な情報処理能力を養うことを目的とする。グループワークによるTBLの学習活動を通じて、主体的に学ぶ姿勢を身につける。</p> <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・Power Pointの学習を通して、効果的なプレゼンテーションの資料を作成できるようになる。 ・表計算ソフト Excelの学習を通して、効率よい作業ができるようになる。

<p>文化比較</p>	<p><授業の目的> 「異文化理解」「多文化共生」「比較文化」をキーワードに、かつて世界で活躍した先人（高知県出身者を含む）の生き方を参考に、グローバル化が進む現代において、心得ておかなければならないことを学ぶ。 <到達目標> 国際人としての知識を身に付け、グローバル化社会に対応できる。</p>
<p>英語ゼミ I</p>	<p><授業の目的> Students will become more internationalized by broadening their reading knowledge/understanding of other cultures/countries & mastering English language skills. <到達目標> Students will acquire a better understanding of culture & language by reading/discussing stories/folktales in English from different countries & doing individual/group research.</p>
<p>スポーツ科学ゼミ I</p>	<p><授業の目的> スポーツをめぐる様々な事象（遊び、祭り、健康観、身体観などを広く含む）に注目する。問題解決力や論理的思考力、コミュニケーション能力を高めるために、受講生は自ら選定したテーマについて調査研究と討議を行うことができるようになる。 <到達目標> ・自分史とスポーツとの関わりを振り返りながら、研究テーマを選定することができる。 ・テーマに合った調査方法を選択して情報・資料を収集し、進捗状況を報告することができる。 ・調査した内容をレポートにまとめ、研究発表と質疑応答を行うことができる。</p>
<p>情報科学ゼミ I</p>	<p><授業の目的> 健康の保持・増進に貢献する実践的な能力を備えるためのリテラシーを培うとともに、日本語ワープロ検定への挑戦を通して、情報技術とその仕組みを理解し、課題に従って、必要な入力、書式等の設定ができるようになる。また、時間内に処理ができるようになる。 <到達目標> 学習履歴の分析の重要性を認識することができる。学習内容を、順序だててレポート作成できる。</p>
<p>英語ゼミ II</p>	<p><授業の目的> Students will become more internationalized by broadening their reading knowledge/understanding of other cultures/countries & mastering English language skills. <到達目標> Students will acquire a better understanding of culture & language by reading/acting out/explaining stories/folktales in English from various countries & doing individual/group research.</p>
<p>スポーツ科学ゼミ II</p>	<p><授業の目的> スポーツをめぐる様々な事象（遊び、祭り、健康観、身体観などを広く含む）に注目する。問題解決力や論理的思考力、コミュニケーション能力を高めるために、受講生は自ら選定したテーマについて調査研究と討議を行うことができるようになる。 <到達目標> ・自分史とスポーツとの関わりを振り返りながら、研究テーマを選定することができる。 ・テーマに合った調査方法を選択して情報・資料を収集し、進捗状況を報告することができる。 ・調査した内容をレポートにまとめ、研究発表と質疑応答を行うことができる。</p>
<p>情報科学ゼミ II</p>	<p><授業の目的> 健康の保持・増進に貢献する実践的な能力を備えるためのリテラシーを培うとともに、表計算検定への挑戦を通して、情報技術とその仕組みを理解し、課題に従って、必要な入力、関数の設定ができるようになる。また、時間内に処理ができるようになる。 <到達目標> 学習履歴の分析の重要性を認識することができる。学習内容を、順序だててレポート作成できる。</p>

<p>英会話Ⅰ</p>	<p><授業の目的> 自分の英会話能力に自信を持つ授業で色々なトピックを使って英会話を練習します。トピックによってアクティビティやゲームや小プレゼンテーションをします。 <到達目標> 英会話を練習しながら、発音、英文法、単語、リスニング、コミュニケーション対策も勉強し、英会話を実践することができるようになります。</p>
<p>英会話Ⅱ</p>	<p><授業の目的> Students will become more internationalized by acquiring the knowledge & mastering basic English language skills (vocabulary, English expressions & grammar) to express themselves & communicate in English. <到達目標> Students will study basic English vocabulary & expressions about everyday topics by reading & speaking (role-playing).</p>
<p>現代スポーツ論</p>	<p><授業の目的> 学生が身につけるべき教養の一つとして、現代スポーツに注目する。日々のスポーツ・ニュースやスポーツ映像の検討を通して、社会・文化とスポーツとの様々な関わりについて考察できるようになる。 <到達目標> ・現代スポーツの特徴についての基礎知識を身につけ、それらを具体的に説明することができる。 ・自分自身が関心を抱くスポーツについての出来事を現代スポーツの一事例としてとらえ、その特徴について考察し、レポートにまとめて報告することができる。</p>
<p>運動と健康</p>	<p><授業の目的> 教養教育の構成分野「運動と健康」において、特に運動と健康のかかわりについて理解を深めることが目的である。生涯スポーツ社会を生きていくうえで、基本的な運動を実践することによって健康増進を図るための知識・技能・態度を身につけることができるようになる。 <到達目標> ・授業で取り上げた問題に関する基礎知識を身につけ、それらを具体的に説明することができる。 ・3種類の運動（ストレッチング運動、有酸素運動、レジスタンス運動）を正しく実践できる。 ・自分の生活スタイルと健康状態を顧み、「運動」による健康増進計画を立案し、試行した結果をレポートにまとめて報告することができる。</p>
<p>生涯スポーツ実技</p>	<p><授業の目的> 健康的な生活を送るために、いつでも、どこでも、だれとでも、安全にスポーツに親しんでいく「生涯スポーツ」の考え方を理解し、屋内と屋外の実技種目を手掛かりとして実践できるようになる。 <到達目標> 複数種目の実践を通して「楽しみながら挑戦する」態度を身につけることができる。用具の準備から片付けまで、自主的に安全な協力体制をとり、受講生主導で進めることができる。体力・運動能力や運動習慣等について自己評価を行い、自己課題の改善方を考察することができる。</p>
<p>キャリア形成演習</p>	<p><授業の目的> 自身の将来の生き方等を選択することができる能力を養う。 <到達目標> ①キャリア形成基礎力「感じ、広げる力」「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を身に付ける。 ②幼児保育学科での学びを更に深めるために、関連する職業に就いての実社会での活動を知り、大学での学びが社会において持つ意味に気づくことができる。</p>

■ 専門教育科目

科目名	授業の目的・到達目標
幼児と健康	<p><授業の目的> 領域「健康」の指導に関する子どもの心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的知識及び基本的技能を身につける。</p> <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の健康課題と健康の発達の意味を理解し、説明することができる。 ・乳幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成を理解し、説明することができる。 ・安全な生活と怪我や病気の予防を理解し、説明することができる。 ・乳幼児期の運動発達の特徴と意義を理解し、説明することができる。
幼児と人間関係	<p><授業の目的> 最新の人間関係に関する理論に基づいて子どもの健やかな成長を願う人間性を養うため、子どもの人と関わる力の育ちに関する他者との親しみ、支え合い、自立心などに関する専門的知識及び基本的技能を身につける。</p> <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解し、特徴を説明することができる。 ・乳幼児期の人と関わる力の発達と集団生活を通じた発達を理解し、説明することができる。 ・自立心や共同性の育ち、道徳性の芽生えと発達を理解し、説明することができる。 ・家庭や地域における子どもの人と関わる力の発達の特徴を理解し、説明することができる。
幼児と環境	<p><授業の目的> 領域「環境」の指導に関する子どもを取り巻く環境や子どもと環境との関わりについて、保育者に必要な専門的知識及び基本的技能を身につける。</p> <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児を取り巻く環境と子どもの発達を理解し、その特徴を説明することができる。 ・乳幼児期の思考や科学的概念の発達を理解し、説明することができる。 ・乳幼児期の標識・文字等、情報・施設との関わりについて理解し、説明することができる。
幼児と言葉	<p><授業の目的> 領域「言葉」の指導において、子どもが豊かな言葉や表現を身につけ、創造する楽しさを広げるために必要な専門的知識及び基本的技能を身につける。</p> <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間にとってのことばの意義や機能を理解し、その意義を説明することができる。 ・言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解し、その意義を説明することができる。 ・幼児にとっての児童文化財の意義を理解し、説明することができる。
幼児と表現	<p><授業の目的> 領域「表現」の指導において、子どもの表現の姿やその発達及びそれを促す要因、子どもの感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成等の専門的知識及び基本的技能、さらに表現力と行動力を身につける。</p> <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの表現の姿とその発達について理解し、その特徴を説明することができる。 ・身体・造形・音楽表現等、様々な表現における基礎的な内容について理解し、その意義を説明することができる。 ・様々な表現の知識と技能を身につけ、実践することができる。
幼児と身体表現	<p><授業の目的> 領域「表現」における「身体表現」を指導するため、保育指導計画を立案し実践するための専門的知識及び技能を活用する実践力を身につける。特に「1. 身体への意識の開放」「2. 遊びへの意識の開放」「3. ダンスへの感性の開放」を通じた保育指導計画の作成力と実践力を身につけることで、幼児教育者として、広く身体表現の意味する所を理解する。</p> <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の身体の可動範囲を広げ、身体能力向上に努めることができる。 ・実践に必要な身体作りと共に学習の場として心身共にのびやかに実施できる。

<p>幼児と造形表現</p>	<p><授業の目的> 幼児にとってかいたり作ったりする造形表現活動はいわば根源的欲求であり、彼等の成長の大きな原動力である。この時間は、幼児教育者の専門性を裏付ける一つの要素として教育者自身にも美術的素養が求められることについて認識を深め、関連する知識について学び、基礎的技能を養う。 <到達目標> 課題作品製作を中心にした演習を通して、必要な知識について理解するとともに、造形的基礎技能を習得することができる。</p>
<p>幼児と音楽表現</p>	<p><授業の目的> 教育内容「表現」の基本理念に基づき、音楽の基礎的知識を得ることにより、教育・保育の場で活用できるように歌唱や器楽の基礎技能と連結させ、いきいきと音楽表現ができるようになる。 <到達目標> 保育者として必要とされる音楽の基礎知識、及びキーボードハーモニーの理論を理解し、メロディーに対し適切な伴奏づけができる。また教育・保育に必要な音楽の基礎知識や技能を身につけることによって、音楽表現の楽しさを子どもに伝えることができるようになる。</p>
<p>保育内容総論Ⅰ</p>	<p><授業の目的> 子どもの健やかな成長を願いながら保育を構想するため、5領域の活動の理解や環境を通して行う教育の考え方、子ども理解、保育者の役割などについて総合的に理解し、子どもたちの姿と関連づけながら保育指導を実践する上で必要な専門的知識及び基本的技能を身につける。 <到達目標> ・子ども理解と保育内容についての事例を通して指導の意義と保育者の役割を説明することができる。 ・5領域の視点から総合的に子どもを捉え、保育を展開するために必要な基礎的な事項について理解し、保育の展開について説明することができる。</p>
<p>保育内容総論Ⅱ</p>	<p><授業の目的> 保育内容総論Ⅰで獲得した知識・技能を踏まえ、社会的状況を分析しながら人命を預かる責任感の下で保育を構想するために、5領域の活動の理解や環境を通して行う教育の考え方、子ども理解、保育者の役割などについて総合的に理解し、子どもたちの発達を見通した指導計画の作成を理解するとともに、その考えを表現し行動することができる。 <到達目標> ・5領域の視点から子どもを捉え、保育を展開するために必要な基礎的な事項について理解し、子どもの姿から指導計画の作成過程と評価について説明することができる。 ・保育者の役割について理解し、援助や連携などについて理解し、指導計画を作成し実践することができる。</p>
<p>保育内容（健康）</p>	<p><授業の目的> 領域「健康」のねらいと内容に基づき、子どもの発達に即した保育者の指導・援助のポイントを学び、それらを教育・保育実習で実践して、振り返りができるようになることを目的とする。特に「運動遊び」における指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。また、保育者として人命を預かる責任感を身につけるために、安全管理とリスクマネジメントに関する知識・技能・態度を習得する。 <到達目標> ・保育者の指導・援助の要点と評価の考え方を具体的に説明することができる。 ・子どもの発達や学びの過程に基づいた指導案を作成し実践することができる。 ・運動遊びの模擬保育と評価を通して、お互いに保育技術を高め合うことができる。 ・「幼児安全法」講習を受け、乳幼児に対する一次救命処置の手順を身につけることができる。</p>
<p>保育内容（人間関係）</p>	<p><授業の目的> 社会的状況を人間関係に基づいて分析しながら、最新の教育・保育理論を活用して保育を実践するため、保育現場の観察によって得られた事例をもとに、乳幼児期の自立心の育成と発達に基づいた人間関係を理解し、具体的な指導場面における保育を考え行動する方法を身につける。 <到達目標> ・子ども同士がかかわる集団生活の場面において、理論的な洞察力をもって保育者に求められる役割と子どもの発達の意義、及び評価を説明することができる。 ・子どもの発達を踏まえた教材や環境構成に基づいて、人とかかわる力の発達をねらう指導案を作成するとともに、行動することができる。</p>

<p>保育内容（環境）</p>	<p><授業の目的> ・子どもの健やかな成長を願う豊かな人間性と人命を預かる責任感を身につけた保育者として適切な環境を構成する視点を養うため、環境への関わり方について学び、環境を通して行う保育を理解する。 ・社会の諸問題と照らし合わせながら、環境のねらいや内容を理解し、乳幼児の発達を踏まえて直接的・具体的な体験ができる保育環境の在り方について理解する。 <到達目標> ・保育者に必要な専門的知識や基本的技能を活用しながら、子どもが環境に親しみ、興味・関心を抱く環境構成を心がけた指導計画を立案し実践することができる。</p>
<p>保育内容（言葉）</p>	<p><授業の目的> ことばを通じた子どもの健やかな成長を願いながら教育・保育を実践するため、子どものことばの発達の助けとなる教材について理解を深めながら、専門的知識および技能を習得し、保育を構想する方法を身につける。 <到達目標> ・保育におけることばの重要性を、具体例を通して説明できる。 ・子どものことばの発達の助けとなる教材を使用したり、作ったりして指導計画を作成し、実践することができる。</p>
<p>保育内容（表現）</p>	<p><授業の目的> 幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらい・内容に添って、各年齢に応じた子どもたちの心情・意欲・態度を育てながら、子どもの感性を豊にするための表現のあり方を、領域「表現」に属する各分野のうち身体活動・音楽及び造形の分野について、演習を通して学ぶ。 <到達目標> 表現として、小さな劇作りに挑戦する。（絵本を表現資料の一つと考える）何も無いものから形に仕上げていく過程を楽しんで実施する。 I 表現に属する分野のうち、身体表現としての小さな劇作りを通して仲間意識、協調性を確認し合い、こどもの世界で遊びながら楽しむ事の気持ちを実感する。ことば、発声の仕方、タイミングがスムーズに実施できるようになる。（池澤 真由美） II 子どもの音楽表現の特徴を述べるができる。また、子どもの音楽表現力を育成するための指導を子どもの成長発達に応じ工夫することができる。（竹村 正） III 保育の場における造形表現に関する基本的考え方について理解し、説明できる。 （末田 光一）</p>
<p>保育指導法</p>	<p><授業の目的> 保育の展開における基礎的事項を基に、子どもの視点から保育を構想する力や子どもの活動にそって総合的に指導することについて理解する。 <到達目標> ・保育の基本と保育方法を理解し、幼児理解を基にした指導について説明することができる。 ・環境構成の意味と保育の展開とともに、一人一人に応じた指導について理解し説明することができる。 ・保育における遊びや生活について理解し、発達に応じた指導のあり方について説明することができる。</p>
<p>教育原理</p>	<p><授業の目的> 保育者に必要専門的知識及び基本的技能を身につけるため、教育活動の基本的な原則の検討や教育実践を通して、教育の本質の理解を深め、公教育の理念と制度、教育課程の意義、教育に関する歴史及び思想についての基礎的な知識を習得し、教育活動に従事する際に必要と思われる教育の原理を理解する。 <到達目標> ・教育について基礎的概念や思想、学校の制度、子どもをめぐる諸思想や諸問題などを理解し、説明することができる。 ・現代の教育問題について主体的に考察し、よりよい教育のあり方を探究することのできる力を獲得し、実践することができる。</p>

<p>教師論</p>	<p><授業の目的> 保育者に必要な知識・技能や責任感、心の錬磨のほか、社会の諸問題に対する子どもの教育・保育に基づいた考えをまとめ、表現し、行動する力を身に付けるため、保育者の専門性や倫理観、職務内容、役割等について理解し、保育者を目指す意欲や自覚が高まるようになる。 <到達目標> 自己の感性を磨き、保育者に求められる資質・能力や役割、職務内容、専門性について、自分の体験や具体事例を踏まえて、的確に説明することができる。</p>
<p>教育心理学</p>	<p><授業の目的> 人命を預かる責任感と子どもの健やかな成長を願う豊かな人間性を備え、最新の教育・保育理論を活用しようとする保育者として、多様な社会の諸問題に対応できる専門的知識及び基本的技能を身につける。 <到達目標> ・教育心理学に関する基礎理論や研究方法を理解し、問題を発見して解決に向けた考えを説明することができる。 ・1人1人の子どもの経験や学習過程の特徴、及び発達援助の意義を説明し、子どもの発達を支援する指導計画を立案することができる。</p>
<p>発達心理学 I</p>	<p><授業の目的> 子どもの健やかな成長を願い、人命を預かる責任感をもって保育を実践することができる保育者として活躍するため、子どもの発達理論と学習活動を支援するための指導に関する理論を理解し、その知識を保育に生かすために必要な知識と技能を身につけることを目的とする。 <到達目標> ・子どもの発達の特徴及び成長の過程を踏まえて基礎理論を理解し、保育への活用方法の具体化とその意義を説明することができる。 ・子どもの発達に寄り添いながら、問題を発見し、学習活動を支援するための方法を考えることができる。</p>
<p>発達心理学 II</p>	<p><授業の目的> 社会の諸問題に対して、子どもの教育・保育に基づいた考えをまとめるため、最新の教育・保育理論を備えるとともに、さまざまな研究論文から情報を収集し、研究成果を保育実践と照らし合わせる知識と洞察力を身につけることを目的とする。 <到達目標> ・保育現場が抱える問題を例に挙げて、その対処法を検討することにより、発達理論と実践との関連に基づいて洞察することができる。 ・幼稚園で調査を実施し、データ解析の結果をレポートにまとめ、発表することができる。</p>
<p>特別支援教育</p>	<p><授業の目的> 発達障害や軽度知的障害をはじめとする障害により特別な支援を必要とする子どもの成長を支援するため、障害の特性や心身の発達を理解する。その子どもが保育に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身につけることができるよう、教育課程や支援の方法を理解する。さらに、障害はないが、特別な教育を必要とする子どもの学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。 <到達目標> ・特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解し、説明することができる。 ・発達障害や軽度知的障害、学習障害等を含む様々な障害の理解と、子どもたちの学習上又は生活上の困難について説明することができる。 ・特別な支援を必要とする子どもに対する支援方法について、個別の指導計画及び支援計画を作成する意義を理解し、方法や支援体制を例示することができる。 ・帰国子女や生活に必要な日本語の習得に困難、または貧困等を抱える子どもの実態を的確に把握し、組織的に対応する必要性を説明することができる。</p>
<p>教育課程概論</p>	<p><授業の目的> 社会的状況を分析しながら人命を預かる責任感と子どもの健やかな成長を願う豊かな人間性を身につけるため、教育・保育に関する社会的制度や教育課程の編成原理や教育課程の評価方法などの基礎的理論及び基本的な用語を理解し、考えをまとめて表現することを目的とする。 <到達目標> ・教育課程の意義及び編成の方法について理解し、その意義を説明することができる。 ・幼稚園の教育課程の変遷を理解し、現在の制度や今後の幼稚園教育について自分の考えを持ち説明することができる。 ・指導計画の立案、実践、評価、改善の流れを理解し、実践することができる。</p>

<p>教育媒体の研究</p>	<p><授業の目的> 幼児教育の現場で用いられる教育媒体の特徴を理解し、効果的な活用方法を習得する。製作体験やディスカッション・発表体験等を行うなかで、幼児理解を深めながら保育者として求められる活用力・課題発見能力を身につける。</p> <p><到達目標> ・教育で用いられる媒体の特徴が理解できる。 ・協同学習の意義と技法を体験的に学習することでコミュニケーション力を身につける。 ・教え導くための情報伝達手段である教育媒体について理解を深めるとともに、情報機器及を効果的に活用できる。</p>
<p>幼児理解と教育相談</p>	<p><授業の目的> 幼児・児童・生徒が保育所、幼稚園、学校生活において、心の成長を促すための援助及び、さまざまな問題に遭遇した際の解決を援助するため、幼児の理解を深め、教育相談の知識や技法の基本を理解する。</p> <p><到達目標> 幼児保育の立場で教育相談を実践しうる資質の向上と教育相談の知識や技法を習得する。</p>
<p>保育原理Ⅰ</p>	<p><授業の目的> ・保育についての基礎・基本を理解し、保育に対する必要な知識を身に付け保育のよりよいあり方について考えることができるようになる。</p> <p><到達目標> ・保育の基本について理解し、保育における子ども理解について述べるができるようになる。 ・保育の制度と現状、歴史について基礎的な知識を習得し、日本における保育について説明することができる。 ・保育の理念・内容・方法について説明することができる。</p>
<p>保育原理Ⅱ</p>	<p><授業の目的> ・「保育原理Ⅰ」をふまえ、保育に対する必要な知識を身に付け保育のよりよいあり方について考えることができるようになる。</p> <p><到達目標> ・保育の計画と評価を関係づけ、指導計画の実際を踏まえた保育について説明することができる。 ・保育者の専門性について理解し、子育て支援や多様な子どもの保育を踏まえ保育者に求められる事柄ことについて説明する事ができる。 ・保育の現状と課題について理解し説明することができる。</p>
<p>子ども家庭福祉</p>	<p><授業の目的> 社会の状況を積極的に受け入れる柔軟な感性を持つために、子ども家庭を取り巻く社会状況をふまえて、現代社会における子ども家庭福祉の意義を理解し、専門職としての適切な判断を下すことができるようになる。</p> <p><到達目標> 保育士として必要な知識と技能を身につけるため、児童家庭福祉と保育との関連性について理解し、その内容と意義を説明することができるようになる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。 2. 子どもの権利と権利保障について理解し、保育との関連性について説明することができる。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系、およびその現状と課題について理解する。 4. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。
<p>社会福祉</p>	<p><授業の目的> 現代社会における社会福祉の意義や基本事項を理解し、社会福祉における子ども家庭支援の視点に基づいた考えや判断ができるようになる。 保育士として必要な知識と技能を身につけるため、社会福祉の制度や実施体系、社会福祉の動向と課題について理解し、その内容と意義を説明することができるようになる。</p> <p><到達目標> ①現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について理解する。 ②社会福祉と児童福祉及び子どもの人権や家庭支援との関連性について理解する。 ③社会福祉の制度や実施体系、利用者の権利擁護にかかわる仕組みを学び、近年の動向と課題について理解する。 ④社会福祉に関連する法律及び条約を説明することができる。</p>

<p>社会的養護Ⅱ</p>	<p><授業の目的> 保育士として必要な知識と技能を身につけるため、社会的養護Ⅰで学んだことをさらに発展させ、実際の地域社会において社会的養護がどのように機能しているかについて理解するとともに、その具体的な方法を理解し、説明することができるようになる。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解し、説明できるようになる。 2. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解し、活用できるようになる。 3. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。 4. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援の具体的方法について理解する。
<p>子どもの保健</p>	<p><授業の目的> 子どもの健全な心身の発達を図るとともに、子どもを取り巻く環境に配慮し、家族や地域の子育ての支援もできるようになる基礎的知識を身につけることができる。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義について理解し、説明することができる。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解し、説明することができる。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握方法について理解し、説明することができる。 4. 子どもの疾病とその予防方法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応、方法について考えることができる。
<p>子どもの保健Ⅱ</p>	<p><授業の目的> 子どもの心身の健全な育成を促進するための知識・技術を習得し保育の場で実践できる。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> ①保育における健康活動の意義と保健活動の計画について説明できる。 ②子どもの成長・発達の特徴をふまえて観察と養護が実践できる。 ③保育における看護技術が実践できる。 ④子どもに多い疾患と傷害を理解し適切な対応について説明できる。
<p>子どもの食と栄養</p>	<p><授業の目的></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養に関する基本的な知識を学ぶ。 2. 子どもの成長段階における食生活について理解する。 <p><到達目標></p> <p>生命を支える食の重要性を子どもに伝えることができるようになる。 食育の基本を理解し、実践できるようになる。</p>
<p>家庭支援論</p>	<p><授業の目的> 子どもの健やかな成長・発達に影響を与える家庭や家族の抱える生活問題についての理解を深め、その解決のための制度・サービスの内容について理解する。さらに、問題解決にむけた支援方法についての知識・技術を身につけることを目指す。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭の意味とその機能について理解する 2. 子育て家庭を取り巻く社会的状況と課題について理解する 3. 子育て家庭の支援体制・サービスについて理解する 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解し、保育士として必要な知識・技術を身につける

<p>乳児保育 I</p>	<p><授業の目的> 保育者に必要な専門的知識を身につけ、人命を預かる責任感を育むため、乳児保育の必要性を理解し、必要な理論・知識・技術の基本を学ぶ。</p> <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳児保育とは何かを学び、さまざまな保育の場で行われている具体的な保育実践を理解する。 ・乳児期の発達の様子がわかり、保育者のかかわり等を実際の写真、映像や事例を通して理解する。 ・絵本や紙芝居等を実際に体験することで、技術や方法を身につけ、実践することができる。
<p>乳児保育 II</p>	<p><授業の目的> 子どもの健やかな成長を願うとともに、社会の諸問題に対して、行動するため、乳児理解を深め、保育を行う上での知識・技術を身につけ、自分の中で整理ができる。</p> <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・3歳未満児の遊びと生活について理解する。 ・3歳未満児の発達過程を理解し、指導計画を作成して具体的なねらいと内容が理解できる。 ・保育所を取りまくさまざまな問題を通して、保護者との連携の大切さや保育所の役割を説明することができる。
<p>障害児保育</p>	<p><授業の目的></p> <ul style="list-style-type: none"> ・共生社会の実現に向け前進するわが国の社会状況を把握し、それに的確に対応するために障害のある幼児及びその保育について理解し、その内容と意義を説明することができる。 ・保育士として必要な知識・技能を身につけるため、障害についての理解や指導、支援の方法等について理解し、その内容と意義を説明することができる。 <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害児保育の理念について学び、障害のある幼児及びその保育について理解することができる。 ・様々な障害種や子どもの実態に応じた指導、支援の方法、環境構成について学び、理解することができる。 ・障害のある幼児の実態即した支援計画の作成ができる。また、関係機関との連携による保護者への支援内容や方法、保育に関わる保健、医療、福祉、教育等について理解することができる。
<p>相談援助</p>	<p><授業の目的> 保育士として、子どもや家族の支援に必要な相談援助の基本的事項と具体的方法について理解し、最新の知見から適切な判断ができるようになる。また、保育士として必要な知識と技能を身につけるため、保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して対象への理解を深め、相談援助の方法を的確に判断し活用できるようになる。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 相談援助（ソーシャルワーク）の概要について理解し、基本的な方法・技術を身につける。 2. 相談援助（ソーシャルワーク）の具体的展開について理解する。 3. 保育における相談援助（ソーシャルワーク）の応用と事例分析を通して対象への理解を深める。
<p>保育相談支援</p>	<p><授業の目的> 心身ともに健全な乳幼児の成長発達を図るために、保護者とともに子育てを進めていくための有効な支援のあり方を理解し、保護者への保育指導を的確に判断できるようになる。</p> <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者による保育相談支援の意義と基本的視点について理解し説明することができる。 ・保育相談支援の原理やその方法と技術について理解し説明することができる。 ・保護者や地域の子育て家庭に対する保育相談支援の内容や方法を理解し、進め方について説明することができる。

<p>造形表現遊び</p>	<p><授業の目的> 幼児にとってかいたり作ったりする造形表現活動はいわば根源的欲求であり、彼等の成長の大きな原動力である。この時間は、幼児教育者の専門性を裏付ける一つの要素として教育者自身にも美術的素養が求められることについて認識を深め、関連する知識について学び、基礎的技能を養う。 <到達目標> 課題作品製作を中心にした演習を通して、必要な知識について理解するとともに、造形的基礎技能を習得することができる。</p>
<p>音楽表現遊び</p>	<p><授業の目的> 保育内容「表現」の基本理念に基づき、子どもの歌とピアノ伴奏、器楽合奏の学びを通して、保育、教育現場において子どもの音楽表現あそびの支援、援助を行うのに必要な基礎技能習得を目的とする。 <到達目標> 子どもの歌唱支援に必要な発声法、ピアノ伴奏法、また器楽合奏について各自の能力に応じた個人指導を受け、音楽理解力や演奏技術、表現力の向上を図り、自ら創意工夫をし子どもたちに音楽表現の楽しさや素晴らしさを伝えることができるようになる。</p>
<p>音楽Ⅱ(器楽・表現)</p>	<p>— 器楽 — <授業の目的> 1年時に習得したピアノ演奏の基礎技能をもとに表現力の更なる向上を目指す。また実践的な力として季節の歌等の子どもの歌の伴奏を学習し、いきいきとした音楽表現ができるようになる。 <到達目標> 能力に応じた個人指導を受けることにより、ピアノ演奏技能を更に向上させる。また子どもの歌の伴奏を学び、保育者に必要な技能の一つとして、子どもの音楽環境を整えることができるようになる。 — 表現 — <授業の目的> 1年次で履修した歌唱表現活動の技能習得を基本にして、保育現場における歌唱活動の表現力の向上と子どもの歌のレパートリー拡大を目的とする。 <到達目標> 声楽の専門的な視点からことばのリズムやことばとフレー징の相関性等について、声楽の専門的な内容が理解でき、表現力に幅を持つことができる。童謡の弾き歌いにおいてより高度な歌唱表現ができるようになる。</p>
<p>造形</p>	<p><授業の目的> 美術の原点を探ることによって、まずそこでは決してもったいぶった観念や技術など必要ではなく、むしろ人間らしさが取り戻せる場であることを学び、それを手がかりにして豊かな表現力を養い、幼児教育者として必要な美術的素養を深める。 <到達目標> 受講生全員参加による空間的広がりが感じられる課題製作を中心とした実技演習における製作過程を通して、造形的技能における応用力を身につけることができる。</p>
<p>造形特論</p>	<p><授業の目的> 子ども達の具体的感情が常にともなう造形表現活動は、彼らが新しい世界を日々発見し、広げていく営みの重要な基盤である。この時間は、実技を中心に美術的教養を習得しながら、幼児にとって重要な造形活動への効果的刺激となりうる豊かな環境の創出について考察し、幼児教育者としての必要な美術的素養を深める。 <到達目標> 身近な物の造形材料としての有効活用が、適切な環境構成に有用なことを知り、アイデアをもとに工夫しながら作品を作製することができる。</p>
<p>体育</p>	<p><授業の目的> 1. 身体への意識の開放 2. 遊びへの意識の開放 3. ダンスへの感性の開放 幼児期の子どもの成長は、遊びや運動、生活動作等模倣を軸として学習されている。幼児にとり表現活動は極めて重要であり、幼児教育者として、広く身体表現の意味する所を理解する。 <到達目標> 自分自身の身体の可動範囲を広げ、身体能力向上に努め、実践に必要な身体作りと共に学習の場として心身共にのびやかに実施できるように挑戦する。</p>

<p>遊びと運動</p>	<p><授業の目的> 1. こどもの身体及び遊びを考える 2. リズム運動表現の創作 3. ごっこ遊びの先に…創作劇を作る。(絵本からイメージを広げて幼児対象の劇作り) <到達目標> こどもが動けるリズム運動創作及び絵本を媒介としたこども劇を創作する過程において、協調性を養い、ゼロから作り上げる過程を実感する。動く絵本としてのこども劇創りを目標とし、実施に努め、幼児教育の現場での発表を目標とする。</p>
<p>国語</p>	<p><授業の目的> 幼児に接するために必要な児童文学についての基礎的な知識を拡げ、理解を深めることができるようになる。 <到達目標> 世界と日本の児童文学史の流れを学び有名な児童文学の知識を得て、実際に課題の児童文学をよむことにより作品を一層身近に感じ理解することができる。</p>
<p>臨床心理学</p>	<p><授業の目的> 社会の諸問題に対して、考え、表現し、行動することができるようになるため、臨床心理学を始めとする様々な心理学について基本的知識を身につけ、理解を深める。 <到達目標> 様々な演習を通して、自己理解を深めることができる。</p>
<p>教育実習事前事後指導</p>	<p><授業の目的> 学生が、幼稚園での実習の心構えや記録のまとめ方、指導計画を立案する力、観察と記録及びその振り返りによる課題発見と改善計画を具体的に定める力を身に付けるため、幼稚園教諭としての職責を理解し、教育実習に向けた適切な準備を行い、教育実習終了後は、成果報告と振り返りによる課題のまとめと改善計画が具体化できるようになる。 <到達目標> ・教育実習に向けた準備を行うとともに、観察記録の体験を通して実践力を身につけることができる。 ・実習記録の書き方を理解することができる。 ・指導計画を立案し保育の実践を行うことができる。 ・教育実習の成果をまとめ、今後の課題と計画を具体的に説明することができる。</p>
<p>教育実習の研究</p>	<p><授業の目的> 学生が、幼稚園教諭としての職責を理解するため、幼稚園で実習を行うための心構えや記録のまとめ方、指導計画立案する力を身につけるとともに、観察と記録およびその振り返りによる課題発見と改善計画を具体的に定める。その上で教育実習に向けた適切な準備を行う。さらに教育実習終了後、成果報告と振り返りによる課題のまとめと改善計画を具体化する。 <到達目標> ・教育実習に向けた準備を行うとともに、観察記録の体験を通して実践力を身につけることができる。 ・実習記録の書き方を理解することができる。 ・指導計画を立案し保育の実践を行うことができる。 ・教育実習の成果をまとめ、今後の課題と計画を具体的に説明することができる。</p>
<p>教育実習</p>	<p><授業の目的> 幼稚園教諭としての資質・能力を身に付けるため、実習を通じて、幼稚園の役割や機能、幼児への働きかけ等を現場で学び、授業で学んだ知識や技術と実践の場での関係を深く理解し、学級経営力や保育指導力を発揮すると共に、自らの課題も明らかにできるようになる。 <到達目標> ・指導計画を立案し、実践することができる。 ・さまざまな保育技術を身に付けることができる。 ・幼稚園教諭としての職業倫理を身に付けることができる。 ・今後の学習課題を見いだすことができる。</p>

<p>教職実践演習(幼稚園)</p>	<p><授業の目的> 保育者に必要な専門的知識及び基本的技能を適切に活用し、社会の諸問題に対して多様な視点から教育・保育に基づいた考えをまとめ、表現し、行動するため、教職課程・保育士養成課程内外での様々な学習内容を有機的に統合し教職・保育職として必要な資質能力を身につける。</p> <p><到達目標> ・教職・保育職に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討を行うことができる。 ・模擬保育を通して実践力、指導力を高める。 ・実習をふり返り、教職・保育職として必要な知識・技能を活用して実践することができる。</p>
<p>保育実習指導 I-1</p>	<p><授業の目的> 保育士としての基本的な知識・技能・態度・職業人としての振る舞いやマナーを身に付けるため、職責を深く理解し、目的意識を持って実習現場へ臨むことができるようになる。</p> <p><到達目標> ・保育実習 I-1 までのスケジュールを把握し、実習に向けた準備をすることができる。 ・実習記録の書き方を理解することができる。 ・指導計画を立案することができる。</p>
<p>保育実習指導 I-2</p>	<p><授業の目的> 施設保育士としての必要な知識と技能を身につけるため、施設実習の「事前指導」と「事後指導」によって施設実習の意義・目的を理解し、施設実習の課題を的確に判断できるようになる。</p> <p>施設保育士としての必要な知識と技能を身につけるため、実習の目的や方法など実習全体に関わる基礎的な事項等について理解し、施設実習における基本的事項を実践できるようになる。</p> <p>「平和と友愛」に貢献するため、倫理的な観点から専門的知識と技能を活用して、実習施設における子ども(利用者)の人権と最善の利益の考慮ため、自ら行動することができるようになる。</p> <p><到達目標> 施設実習の意義・目的、実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 施設実習における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシー保護と守秘義務について理解することができる。 実習計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解することができる。 実習の事後指導を通して、実習の自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にすることができる。</p>
<p>保育実習 I-1</p>	<p><授業の目的> 保育士としての資質・能力を身に付けるため、実習を通じて、保育所の役割や機能、子どもに対する理解を現場で学び、授業で習得した知識・技能と実践の場での関係を理解して、総合的に実践する応用力が発揮できるようになる。</p> <p><到達目標> ・観察や子どもとの関わりを通して子どもの理解を深めることができる。 ・保育所の機能と保育士の職務について理解することができる。 ・既習の教科の内容を基に、子どもの保育及び保護者への支援について理解することができる。</p>
<p>保育実習 I-2</p>	<p><授業の目的> 施設保育士としての知識と技能を身につけるために、居住型児童施設等の生活に参加し、機能と施設保育士の職務について理解し、その内容と意義を説明することができるようになる。</p> <p>「平和と友愛」に貢献するため、倫理的な観点から専門的知識と技能を活用して、子ども(利用者)の最善の利益のため、自ら行動することができるようになる。</p> <p><到達目標> 児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解することができる。 観察や子どものかかわりを通して子どもへの理解を深めることができる。 施設の機能とそこでの保育士の職務及び職業倫理について理解し、説明することができる。</p>

<p>保育実習指導Ⅱ</p>	<p><授業の目的> 保育所で実習を行うための心構え、記録のまとめ方、指導計画立案の他、社会人基礎力を身に付けるため、保育士としての職責の重要性を理解し、目的意識を持って実習現場へ臨み、実習後は振り返りによる課題発見と改善計画の具体化ができるようになる。 <到達目標> ・保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶことができる。 ・保育実習Ⅰや既習の教科の内容およびその関連性を踏まえ、保育実践力を培うことができる。 ・事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にすることができる。</p>
<p>保育実習Ⅱ</p>	<p><授業の目的> 保育士としての資質・能力を身に付けるため、実習を通じて、子どもに対する理解や保育技術、倫理観等を現場で学び、授業と実践の場での関係を理解して、保育指導力など総合的に実践する応用力を発揮すると共に、自らの課題も明らかにできるようになる。 <到達目標>・指導計画を立案し、実践することができる。 ・さまざまな保育技術を身に付けることができる。 ・保育士としての職業倫理を身に付けることができる。 ・今後の学習課題を見いだすことができる。 ・家庭と地域の生活実態に触れて、子育て支援の重要性を説明できる。</p>
<p>健康教育演習Ⅰ</p>	<p><授業の目的> 人命を預かる責任感と倫理観を有し、平和と友愛へ貢献する上で、特に子ども期の健康を支える専門的職業人として活躍するため、食・医・教育の多様な分野から「歯みがき」の指導法についての計画を立て実践する。さらに、学習内容を所属学科・専攻へ持ち帰り、各専門性に活用する視点を養う。 <到達目標> 子ども期の歯みがきについて、各専門性と連携しながら、子ども期の健康づくりに貢献できる実践力を身につけ、倫理的な観点から専門的知識と技能を活用して考え抜き、自ら行動することができる。さらに、多様な専門性の視点を自分たちの専門性へ反映することができる。</p>
<p>健康教育演習Ⅱ</p>	<p><授業の目的> 人命を預かる責任感と倫理観を有し、平和と友愛へ貢献する上で、特に高齢者の健康を支える専門的職業人として活躍するため、食・教育・医療の分野から高齢者の健康の指導法について計画を立て実践する。さらに、学習内容を所属学科・専攻へ持ち帰り、各専門性に活用する視点を養う。 <到達目標> 高齢者の健康で心豊かな生活について、各専門性と連携しながら、実践活動を通し地域貢献の意義を理解し、倫理的な観点から専門的知識と技能を活用して考え抜き、自ら行動することができる。さらに、多様な専門性の視点を自分たちの専門性へ反映することができる。</p>